

## 2017年度学校評価(自己評価と第三者評価)

東海大学付属札幌高等学校

5～1のそれぞれの評価(5:良い 4:概ね良い 3:どちらともいえない 2:やや不十分 1:不十分)

A～C(A:概ね良い B:どちらともいえない C:やや不十分)

分野	重点目標	成果と課題	2017年	2016年	2015年	改善策	自己評価の妥当性	改善策の妥当性
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	<p>学校運営に関する項目について、2016年度は校名変更に始まり、新校舎・札幌望星塾が完成し、スクールバスの運行など大きな学校改革が実施された年度であったこともあり、特に教職員の評価が前年度よりも0.3ポイントアップした。今年度は、教職員・生徒の評価が若干下がったが、保護者の評価は4.1と変わっていない。</p> <p>2016年度からの新校舎や札幌望星塾の完成に続き、今年度はクラブハウスの新設やテニスコートの改修等が実施され、今後も「教育環境の充実」は継続的に推進されていく。生徒や保護者にも周知していく努力を続けたい。</p> <p>「学校改革」に関する項目も、教員で0.3ポイント下降している。ハード面の改革ではなく、今後は教育内容に関するソフト面の改革が求められていると言えよう。</p>	教職員 3.7	教職員 3.8	教職員 3.5	<p>2015年度からの新制服導入、校名変更、新校舎完成、無料スクールバス、札幌望星塾、クラブハウス、テニスコートの完成など、ハード面の改革は順調に進んできた。その一方、授業改革や部活動以外の生徒による活動など、ソフト面の改善が急務である。ICT教育やアクティブラーニングの推進などを通して、具体的な教育内容の改革を全教職員で進めていかなければならない。</p> <p>そのために2018年度は「教育改革委員会」を発足させ、2020年度から始まる新しい大学入試への対応や、それを踏まえた新カリキュラムの編成・ICT活用を含めた新しい学びのあり方などを検討し、本校の今後の教育の方向付けを行っていく。</p>	A 100%	A 100%
		保護者 4.1	保護者 4.1	保護者 4.1				
		生徒 3.8	生徒 3.9	生徒 3.8				
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<p>学習指導の項目は、本校の学校評価項目の中でも、評価が厳しい部分である。保護者や生徒が学校に何を求めているのか、窺える大事な項目と言える。特に「図書館の利用」「家庭学習の習慣」の部分は従来から評価が低かった。一昨年度からメディアセンターや教科が中心となって、図書館のガイダンスや授業利用を推進してきた。ここ最近では、その成果がはっきり出てきており、新校舎に移ってからの2年間の、メディアセンターの利用者数や図書貸出し数は大幅に伸びている。また、メディア委員会の発足などもあり、生徒による自主的な委員会活動が軌道に乗り出している。</p> <p>また、一昨年度から家庭学習等の習慣を付けるために、国・数・英の3教科で放課後の課題や長期休暇中の課題を与えることを総合進学コースで開始したが、それが家庭学習の取り組みへの評価に直結したかという点、そもそもない状況である。2015年度と16年度を比べると「課題学習」の項目が、教職員・生徒ともに大幅に上昇したが、2017年度は、やや停滞気味であったと言えよう。アクティブラーニングやICT活用教育など、新しい学びのあり方を含めて、学校全体で教育改革に取り組んでいくことが急務である。</p>	教職員 3.5	教職員 3.6	教職員 3.0	<p>メディアセンター(図書館)は本校における「知の拠点」として授業やその他で活用されており、今後も授業での有効活用に加え、メディアセンターの利用を大いに推進していく。</p> <p>家庭学習習慣定着のための学習課題を生徒に与える取組については、課題の量や質を検討しながら継続していきたい。今年度、英語科で導入した英語のe-Learning Newtonや16年度から特進で導入しているスタディサプリなど生徒の学習進捗状況をインターネット上で教員が把握し指導する取組も有効であり、次年度も継続していく。</p> <p>今後は札幌望星塾での学習時間確保など、部活動生徒の学習習慣確立についても組織的に検討していきたい。また、2018年度は、「教育改革委員会」を発足させ、本校の今後の教育のあり方を検討し、それを受けて、2020年度大学入試改革へ向けての学びの指針を作成し、ガイダンスを実施する予定である。</p>	A 100%	A 100%
		保護者 3.3	保護者 3.4	保護者 3.3				
		生徒 3.3	生徒 3.3	生徒 3.1				
クラス指導	退学者を出さないクラス作り・生徒同士や教員との意思疎通のある活気あるクラス作り	<p>「学校・クラスは楽しいか」という項目に関して、保護者は(4.2)・生徒(4.0)と例年同様大変高かった。楽しい学校という項目は、本校では安定して高い評価を維持している。本校生徒の学校満足度は、全国平均に比べて圧倒的に高い。</p> <p>但し、一部の生徒や保護者からの評価で、「教職員は生徒の悩みやいじめ等の問題に適切に対応している」という項目で、厳しい評価が出ていたアンケートもあった。いじめはいつでもどこでも起こりうるのだという、意識を持って予防的な対応をしつつ、一旦事が起きれば、迅速な対応が求められる。本校は今後も生徒間の好ましい人間関係作り邁進していきたい。</p>	教職員 3.9	教職員 4.0	教職員 3.9	<p>生徒一人ひとりを大切に、退学者を極力出さない学校として、学級担任や学年主任、健康推進室、部活動顧問、教科担当者など、全教職員が様々な角度から生徒を細かく観察・情報共有し、生徒のケアに携わっている。今後も保護者との連携を活発にししながら、生徒のケアを行っていく。</p> <p>全ての生徒が安心して過ごせる居場所としての学級作り・学年運営、人間関係の構築を進めていく。特にハイパーQU(学級集団アセスメント)の結果を有効に活用し、生徒の人間関係の支援を予防的に行っていく方法を、健康推進室と学年が協力して具体化していきたい。教職員一同、生徒の変化を敏感に察知し、いじめ等を小さな芽のうちに対応していけるようアンテナを張りながら、生徒一人ひとりの多様性を尊重した指導を実施していく。</p>	A 100%	A 100%
		保護者 4.0	保護者 4.1	保護者 4.1				
		生徒 4.1	生徒 4.1	生徒 4.1				
生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	<p>本校はしつけ教育をしっかりと行う学校として定評があることが、この評価アンケートでも示されたと思う。本校の伝統であり、重点項目の一つが高い評価を得たことは、教育の成果として考えて良いと思われる。バスや地下鉄の乗車マナーなどへのクレームも昨年同様、ほとんどなかった。個々の生徒の問題行動は多少はあったが、全体としては落ち着いた生活の様子が反映された結果だと思う。一つ気になるのは、「校則やきまりを守らせている」という項目で教職員の評価が4.6(2015年度)→4.0(2016年度)と0.6ポイント下がり、2017年度も4.1ポイントと、大きくは戻っていないということである。時代の変化とともに、変わっていく部分と、変わってはいけない部分をしっかりと見極めていく必要がある。</p>	教職員 3.9	教職員 4.0	教職員 4.1	<p>本校の生徒は愛校心や学校への誇りを持っているように見受けられる。生徒会を中心に展開している朝の挨拶運動や、全生徒での地域清掃活動、毎日のSHRや清掃活動などを通して、社会ルールやマナーを意識する機会があると思われる。校内には元気な挨拶が行き交っているが、更にTPOに応じた振る舞いや心のこもった挨拶など、改善できる点もあろう。</p> <p>社会情勢の変化に伴って、学校のルールの見直しが必要であるが、同時に決められたルールを遵守することも指導していかなければならない。これからも、生徒の自主性を重んじながら、マナー教育や生活指導を継続して行っていきたい。</p>	A 100%	A 100%
		保護者 4.3	保護者 4.4	保護者 4.3				
		生徒 4.4	生徒 4.4	生徒 4.4				

進路指導	目標設定と進路決定の早期化	<p>本校は東海大学の付属校であり、大学等の上級学校進学を目指す学校である。東海大学の付属高校のメリットを最大限に生かしながら、生徒の進路実現のために、多様な説明会や懇談・面接を展開してきた。</p> <p>生徒の、「進路指導」に関する評価は変わっていないが、保護者が若干下がっているのは、生徒から自分の保護者へ進路情報の伝達や、学校から保護者への進路情報の伝達に、より一層の工夫が必要であると考えられる。</p>	教職員 4.0	教職員 4.1	教職員 3.8	<p>大学を中心とする上級学校への本校の進学率は80%を超えており、本校は大学進学を目指す生徒が多く集まる学校である。東海大学を中心としながら、3年間で系統立てた進路指導を行っているが、進路決定の早期化や2020年度の大学入試改革に向けて、組織的に取り組んでいきたい。</p> <p>今後も東海大学付属推薦による進学のメリットを積極的に説明するなど、生徒や保護者に進路決定のための十分な情報を提供していく。</p> <p>また、他大学進学希望の生徒など、多様な進路希望の生徒にも対応すべく、研修を重ね、きめ細かな進路指導の継続を進めていく。</p>	A 100%	A 100%
			保護者 3.9	保護者 4.0	保護者 3.9			
			生徒 4.1	生徒 4.1	生徒 3.9			
特別活動	生徒会活動と部活動の活性化	<p>「部活動の指導に熱心に当たっている」という項目に関する評価は、昨年は教職員平均(4.6)、保護者(4.5)、生徒(4.3)であった。今年度は教職員(4.7)、保護者(4.3)、生徒(4.2)と依然として高い。</p> <p>特別活動に関する項目では、保護者の評価はトータルで0.2ポイント下降している。内訳は「学校行事や生徒会行事」で0.2ポイント、「委員会活動への取り組み」で0.2ポイント、部活動指導への評価で0.1ポイントダウンという数字だった。</p>	教職員 4.2	教職員 4.2	教職員 4.1	<p>部活動にかけける生徒や教職員の情熱を今後もバックアップできる学校でありたいと考える。文武両道の実践を推進し、戦績だけでなく、部活動を通した人間教育の面でもさらに充実した指導を行ってきたい。</p> <p>また、学校行事や委員会活動を通して生徒や集団を育むという視点を共有し、全ての生徒が活躍する場をいかに作り出すかを教職員一人ひとりが考えながら、教育環境の更なる充実を目指していかなければならない。</p>	A 100%	A 100%
			保護者 4.1	保護者 4.3	保護者 4.3			
			生徒 4.0	生徒 4.1	生徒 4.0			
第3者評価委員意見		<p>●生徒や保護者の評価について、学年毎の結果も見てみたい。また、各質問に対して、「5」～「1」はそれぞれ何人いるのか。評価毎の人数も見てみたかった。スクールバスの増便により、乗れる可能性が高くなったことは、良かったと思う。</p> <p>●アンケートの各項目に対して均一に取り組むよりも、年度毎に重点項目を絞って、改善策を実行してはどうだろうか。また、生徒の母校への愛着の項目が0.3ポイント下がっているのが、東海に愛着を大いに持つ自分としては気になった。</p> <p>●全体的に学校評価が高評価であること、生徒の学校生活の満足度が高く、それが安定していることが素晴らしい。また、次年度は教育改革について委員会を立ち上げ、組織的に取り組もうとしていることは、評価できる。図書館の利用に関するアンケートの評価は低いが、実際の利用者の増加や、貸し出し数の増加など、着実に伸びている。新校舎建設に当たって、学校が図書館を生徒が利用しやすい場所に作り、学校として大事な位置づけをしたことと繋がっていると思う。また、司書の方も研修を重ね、真摯に取り組んでおられる。このまま、学校教育の充実を継続していただきたい。</p> <p>●授業力アップを学校目標として取り組んで来られたと思うが、教員の「授業の指導方法や内容に、工夫がなされている」の項目の評価が低かったのが、気になった。先生方の自信がないためなのだろうか。</p> <p>また、学校説明会に何度か足を運ばせてもらったが、毎年、説明会の内容が良くなってきている。いろいろな工夫がされており、生徒の活躍を見られて良かったと思う。ハード面の充実はしっかりされているので、今後はさらにソフト面の充実のために、ひとつずつ頑張ってもらいたいと思う。</p> <p>●近所の方の関心や評判も良く、年々学校のイメージがアップしていると感じる。来れば来るほど、良い学校になっていると感じる。これからもどんどんステップアップしてほしい。</p> <p>●首都圏では私学の地位は高いが、北海道では公立の学校の滑り止めのようなところがあると感じた。自分の子どもは、本校の特色に魅力を感じ、自ら希望し、選んで入ってきた。本校は第一希望で入学して来る生徒が多いと聞いたので、もっとこの点をアピールしてはどうか。</p> <p>●最近では私学の位置づけが変わってきている。公立の滑り止めではなく、目的があって行きたいから私学に行くようになってきている。女子も増えており、東海大学に推薦で行けるメリットはもちろんだが、他の大学にも行けることをアピールしてはどうか。</p>						

2018年3月3日実施

アンケート回収数

教職員:65人 生徒:924人/970人

保護者:658人/970人